

おわりに

長 委三美先生による「東医の礎」をもとに「東京医科大学建学の礎」を発刊できましたことは編集に携わった私達にとって欣快の至りです。「東医の礎」は長先生が大正五年五月十六日に日本医学専門学校より退学処分を受けた十三名の学生に殉じて同盟退校したのち、新たな医学校を設立するという目的に向かって苦闘した日々の記録です。しかしながら、この記録は長先生の苦闘をつづつたものではなく、学生達を応援してくれた各界の錚々たる方々の暖かい言葉をそのまま写した本であり東京医学専門学校設立が如何になされてきたかを知る上で大変貴重な内容を含んでいます。とくに開学の祖である高橋琢也先生の生の声がいくつか記録されており、高橋先生が身を挺して学校設立に尽力されたか筆舌に尽し難い部分もこの本を読むことで感得できます。高橋先生を中心とし、長先生ら四百数十名の学生団が一糸乱れず新校設立へと邁進したことは想像を超える出来事です。東京医科大学は数年後に百周年を迎えます。この時にあたり、九十一年前の夏を思い起こすことは大切なことかと思われれます。

「東医の礎」の原稿とそのコピーをご提供下さった長 委三美先生の御次男、長 亨先生や今回の編集に多大なご協力を戴いたご家族の皆様には厚く御礼申し上げます。また、中濱東一郎先生が本学の開設に関与されたことを知って、快く回生病院や回生病院スタッフの写真を御寄贈いただきました中濱博先生（中濱東一郎博士の孫）にも感謝申し上げます。「東京医科大学建学の礎」を発刊するにあたり、暖かい

ご支援を戴くとともに格調高い文章をご寄稿戴きました東京医科大学理事長・伊東洋先生、下光輝一先生（東京医科大学学長職務代理）、佐藤蕃先生（東京医科大学・昭和二十九年卒業、順天堂医院副院長・佐藤佐先生の孫）にも心より御礼申し上げます。

「東医の礎」の原本（コピー）は長委三美先生の直筆であり、編集者らにとって解読が難しい部分が多くありました。それらの部分の解読は日本大学生産工学部教授・田中直樹氏、東定宣昌氏（九州大学・名誉教授）、草野真樹氏（福岡県地域史研究所研究員）、山本多賀子さん、青山恵里香さん（東京医科大学図書館）のご協力によりました。深く感謝いたします。解読が完全でない部分もあるかもしれませんが、いずれ改訂版が発刊できる機会がありましたらその時に校正を行うということでご容赦いただきたいと存じます。

また、「東医の礎」の内容を補完する上で、本文中に注や訪問名士の略歴などを加えました。

平成十九年七月

東京医科大学および「東京医専」

一色 淳、勝村俊仁

栗原茂勝、友田燁夫